

平成28年度 新富町立上新田中学校 学校評価書

4段階評価		4 とても良い 3 良い 2 少し悪い 1 悪い						
重点目標	評価指標	学校としての取組や反省	保護者	教職員	学校	委員会	学校関係者評価委員の意見	
1 家庭・地域との連携	1	学校は、保護者や地域の声や願いに応える教育を積極的に行っている。	○ 完全とは言えないまでも保護者の声や地域の方の声を反映しながら取り組んできた。(菜の花プロジェクトや調理など)	3.21	3.00	3.4	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの情報発信は、多方面に気を配りながらWebをはじめ学校便りや新聞記事など積極的な活動を感じる。 ・保護者側は相変わらず参観日にも行かず、しつけを学校へ押しつけ要望ばかりしているように思う。 ・時代の変化による家庭環境の変化に、学校側は柔軟に対応しようとする姿勢が素晴らしいと思う。 ・菜の花プロジェクトや椎茸の駒打ちなど、地域の方々からの協力をいただく仕組みが積極的に行われていると感じる。 ・運動会などの各行事等にも来賓として地域の方に声をかけており、学校行事に対する理解も深まっていると思う。 ・学級通信は、保護者の声からも学年によって少ない等意見があるが、要所で連絡があれば問題ないと思う。
	2	学校は、各種の便りやホームページ、保護者会等を通して重点目標やどのように取り組むかについてわかりやすく伝えている。	○ 校長室便りや、ホームページで学校の様子を知らせるなかで、学校が大事にしていることや考え方を伝えられたと考えている。	3.46	3.83			
	3	学校は、参観日や行事などで、保護者や地域住民と交流ができる機会を適切に設けている。	○ 保護者からの要望等には、しっかりと話を聞き対応している。地域の声を取り入れるためにさらにアンテナを高くしたい。	3.36	3.33	3.5		
	4	学校はPTA会費や教材費など、保護者から集めたお金について適切に処理し、保護者にもきちんと説明している。	○ 参観日を土曜日に実施したが、参観率が48%で、12月の参観率(54%)より悪かった。次年度の参加率の向上が課題である。 ○ 金銭については、扱いに注意を払い、適切な処理を行う事ができた。教材費未納の対応に困った。	3.58	3.83			
	5	教職員(担任)は、各種の便りや保護者会等を通じて、子どもの生活状況や学級の様子を日常的に伝えている。	○ ホームページも7万アクセスを超え、情報発信をしっかりと行う事ができた。学級通信も学級差があるものの全クラスが発行した。	3.25	3.00	3.1		
	6	教職員(担任)は、生徒の良いことや気になることについて、電話や家庭訪問などで、家庭との連絡をきめ細かく行っている。	○ 家庭との連絡は担任だけではなく、部活動、保健室からも行った。しかしながら、保護者の中にはもっと細かいことでも情報を伝えて欲しいとの要望もあり、今後もきめ細かな連絡に努めたい。	2.91	3.00			
	7	子どものことについて、教職員に気軽に相談できる。	○ 一昨年度、昨年度に比べると今年度は、「教職員に気軽に相談できる」と回答した保護者の割合が向上している。今後も「傾聴」の姿勢を大切にしたい。	3.12	3.20			
2 きめ細かな指導による学力の向上	8	学校は、楽しく分かりやすい授業を実践してくれている。	○ 校内研修会において全職員が1回は研究授業を行い、指導方法を工夫した。 ○ 国語、数学、英語において少人数指導を取り入れ授業を展開した。	3.08	3.33	3.2	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・リレー宅習など、斬新なアイデアで子供たちの学習意欲を高めようとする取組があり、先生方が真剣に考えていることを感じた。 ・保護者の評価点が全項目において教職員を下回っているが、確実に学力が向上していると感じる。 ・教育の専門家として、専門分野での苦勞や努力は外部へは伝えないことが多いので保護者とのずれがあるのだと思う。 ・保護者の一日入学で生徒役を体験してもらうのもいいのではないか。
	9	一人一人の学力を伸ばすためのきめ細かな指導が適切に行われている。	○ こうした取組の中で生徒の学習への集中力が高まり、3年生を中心に学力の向上が見られた。	2.96	3.50			
	10	家庭学習のための課題については、適切に与えられている。	○ 宅習や課題の提出状況は個人差が激しいため、継続的な取組が必要である。 ○ 生徒による授業評価を実施し、それを教科担任へフィードバックすることで授業改善を行った。	3.18	3.33			
	11	教職員は、子どもの個性をよく把握し、適切な評価や声かけをしてくれている。	○ リレー宅習や宅習を各教科担がチェックするなど工夫した取組を行った。	3.06	3.17			

	重点目標		評価指標	学校としての取組や反省	保護者	教職員	学校	委員会	学校関係者評価委員の意見
3	生徒に自信をもたせる取組の推進	12	教職員は、一人一人を大切にした学級経営・いじめのない集団づくりを行っている。	○ 学級の間人間関係に配慮しながら、生徒の座席を決めたり、他人の良さに気づかせる指導を行ったりして、よりよい集団作りに努めてきた。	3.04	3.50	3.3	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供同士のトラブルがあるが、そのトラブルが発生した後の学校側の対応に感心した。子供たちと真剣に向き合っていることがわかる。 ・ 地域に接する生徒の挨拶や笑顔に自信を感じます。 ・ 生徒会活動でのスマホやネットに関する自発的な取組も自信を持たせていると感じる。 ・ 節目の始業式などでも個人で決意を述べる機会をたくさん生徒に体験させ自信になっている。
		13	部活動は適切に行われている。	○ スマホとネットの問題を人権教育として捉え、生徒会や保護者と協力しながら継続的に取り組んでいる。	3.15	3.17			
		14	生徒に自信をつけさせるために、授業や行事等において、生徒が発表したり、活躍したりする場が十分に設定されている。	○ 部活動は良く取り組んでいる。しかし部活動に入っていない生徒が多いことが課題である。 ○ 人前で発表させるなど、活躍させる場を意図的に増やし、承認する機会を多くすることにより、集団行動やあいさつ運動の向上や生徒会活動の充実につながってきた。	3.23	3.67			
4	小学校との連携他	15	小学校との連携を図る授業や取組が適切に行われている。	○ 昨年度と同じように小中合同研修会、サマースクール、読み聞かせ、部活動体験や交流活動も実施できた。 ○ 小中で共通して学習する時の決まり「いきいき4ヶ条」を実践した。 ○ 小中合同漢字・計算コンクールを行った。また、新たに優れた宅習ノートを相互に掲示し合う取組も行った。	3.09	3.00	3.2	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中合同でのスケジュール管理の元、着実に一貫教育校に向けた連携が進んでいると感じた。 ・ 時間とともに処理しなければならないこともあり一歩一歩の進展を応援します。 ・ ネットやスマホによるトラブルは、生徒会を中心に家族ぐるみの継続的な取組が必ず効果を発揮すると思う。 ・ 一貫教育校に向けた先生方の取組は、まだまだ課題があるといわれるものの、積極的に取り組まれていると感じた。 ・ 小学校との連携では、中1ギャップ等を考え年々よい取組がされてきている。 ・ 中学校の影響なのか、小学生もあいさつをして通る子が多くなってきている。 ・ 生徒同士のトラブルを少なくするためには、思いやりの心をもつ教育が必要だと感じる。人権教育等、今後も継続して力を入れてほしい。
		16	思いやりの心やルールを守る態度、協調性など心を育てる授業や教育活動が適切に行われている。	○ 生徒会活動の充実により、規律ある行動ができるようになった。 しかしながら、ネットスマホでの人間関係のトラブルが依然としてあるため、継続的な取組が必要である。	3.11	3.50			
		17	生命や安全、健康について学ばせる授業や教育活動が適切に行われている。	○ 健康振り返りカードを実施することにより、自分の健康について考える機会にした。弁当の日の取組も定着してきた。	3.09	3.50			
		18	性教育や情報教育、人権教育など、今日的な課題についての教育も適切に行われている。	○ 発達段階に考慮しながら、定期的に全校一斉性教育を実施している。 ○ ネットスマホの問題に、人権教育とも関連付けて、生徒会や保護者と連携しながら継続的に取り組んでいる。	3.12	3.33			

次年度の方向性についての校長所見

- 1 家庭や地域との信頼関係を高めるために、今後も積極的な情報発信を行うとともに、気軽に意見交換ができる雰囲気作りに努めたい。
- 2 学力向上を図るために、全員の授業公開を行いながら学習指導法の工夫改善に努めたい。また、一層保護者と連携することで家庭学習の習慣の定着を図りたい。
- 3 今後も、生徒の指導において「傾聴」の姿勢を大切に、積極的に「承認」し勇気づけることで生徒の自信と意欲を高め、生徒が活躍する場を増やしたい。
- 4 H30の小中一貫教育校の開校を見据え、小学校と協力しながら教育目標や教育課程の検討など準備を始めていきたい。また児童生徒間の交流もさらに増やしたい。